

ものづくりの根幹は「制御・組込み系」にあり JASAへの入会で組込み分野の事業化に向け本格始動

このほどJASA近畿支部に入会いただいたFLAPS(大阪市北区)。2005年の設立以降、Webや業務システム開発で業績を伸ばしてきたが、代表取締役の明石和美氏は自身の経験から「制御系・組込み系を事業の柱に」と話す。昨年、組込み分野での経歴を持つ人材の入社もあり大きな一歩を踏み出した。長年の協業会社でもあるBeeの代表取締役でJASA近畿支部長を務める塩路直大氏を交え、今後の展開など話を伺った。



JASA近畿支部長/
株式会社Bee 代表取締役
塩路 直大 氏

株式会社FLAPS
代表取締役
明石 和美 氏

「ゆるぎない技術者を育て、 ゆるぎない会社に。 その還元がお客様へ向かう」

一物流などの業務システム開発が事業のメインですが、組込み分野の事業化はどういった経緯からでしょうか？

明石 もともと私がサラリーマンをしていた会社は、制御系組込み系の事業がメインでした。会社を経営するようになって、強い会社をつくりたいという思いが根底にあります。いまの会社ではWeb構築の業務も多いのですが、世の中のITに関連するビジネスを一括りで捉えたと、全体の7割以上はWeb系の業務が占めるだろうと勝手にイメージしています。その中で強くしていくのは大変なこと。その一方で、本来ものづくりは、制御であったり組込みにあるという思いがずっと頭にありました。それが昨年、組込みの領域で実績を備える中原啓之輔氏の力を得て、本

当の意味での強い会社、制御や組込み事業の部隊をつくろうと歩み始めたところです。

塩路 もともと制御系の業務に関わっていたわけですね。

明石 当時は先輩から「技術者のセンスがないから早くマネージャーになりなさい」と言われていたこともあって、その後は違う方向にも行きましたけど、そうした中でも事業の根幹はここだと感じていました。

いま関わっている業務は物流系が多いので、まずはその方面の領域からになるでしょうが、これから考えると空に向かう領域、例えば衛星に関連した事業などに携われたらいいなと思っています。テレビや車、家電製品、さらに水道、電気などどんなものにも関

わりがある技術ですから、頼られる会社になるにはしっかり根幹の部分から理解しないと生き残れないということを強く感じています。

社員の意識を変えていく必要もあるので多少時間は掛かりますが、会社のスタート

が通信関連中心だったことからC言語やC++の経験があり、まったく素養がないわけではありません。あとは頭を柔らかくして、いかにスイッチを切り替えてもらうかということ



を意識しています。

一社内的には、全員に組込みの業務を経験させていくというイメージですか？

明石 そうですね。循環させていく中で、意外と組込みの方が向いているなといった気づきもあるかなと思っています。ちょっと違う

視点で経験させてみると面白いかもと感じる社員もいます。本人にとっても刺激になるでしょうし、仮に制御に向いていなかったとしてもさらに一皮むけるような刺激にもなるかなと期待しています。

社員教育ということでは、強い技術者を育てたいと思っています。景気の波は良いときも悪いときもあって、もてはやされることもあればリーマンショックの大変な時期にはダンピング受注が引き起こされたりしました。そうしたときにもゆらぐことのない強さを備えてもらいたいと思っています。社員がゆるぎない技術者であれば会社もゆるぎない存在になるし、その還元はお客様に向かうことになりますから。

例えばWindowsで動くソフトのことしかわからないという人はたくさんいると思いますが、それでは困ることって結構あるし、そういう意味では下回りを理解している人を増やしたいですね。私はよく“軽自動車にベンツのエンジンを搭載するとしたらどうすれば良いか”と例えて口にしますが、条件の異なる中でも最適解を導き出せるような技術者であればいいと思います。一貴社サイトの採用ページに「あなたの人生の主演はあなたやで!!」と強いメッセージがあります。

明石 はい。自分自身を振り返って感じたことでもあります。自分が幸せにならないと周りも悲しむものです。会社の中では私たちは脇役であって、各々自分自身が主演です。それを忘れずに生きていってほしいという思いがあってそういう言葉になりました。

塩路 FLAPSさんは人づくりをしたい会社なんだということが伝わってきます。

明石 以前はIT企業というより“劇団FLAPS”などと言われたこともありましたが(笑)

「JASAが一丸となれる仕事。 そこに参加できれば 成長に期待が膨らむ」

塩路 長くお付き合いさせていただいてる中で、こうした業界団体に所属して会合に参加するようなことはあまり求めてはいないのかなという印象も持っていました。

明石 そんなことはありません、飲みに行くのは好きです(笑)。ただ以前のように社員も少ないと貢献もできないし、メリットがないのではとの思いから意識していない時期はありました。それでも入会していた団体もあり異業種交流なども参加していましたが、IT関連企業が少なかったこともあって1年足らずで退会した経緯があります。

塩路 組込み領域で力を入れていかれると伺ってお誘いしましたが、入会の後押しとなったことは何でした？

明石 本格的に組込み業界に乗り出そうという考えからです。横のつながりでビジネスに発展することもあるでしょうし、業界や技術の情報も早く知ることができます。自社だけで集めようにもたかが知れています。知見がないと自分のロジック以外は見えないですから、他人のロジックにふれることも必要です。そうしたことが叶う環境で、とてもうれしく思います。

塩路 近畿支部の集まりにゲストでお招きしたんですね。まず参加してみて、よければ入会を検討してくださいという感じで。中原さん、そのときの印象はいかがでしたか。

中原 参加させていただいて、いろいろなWGの話が聞けて活動内容が理解できました。特にエッジ端末でLEDを制御するとか、技術継承をどうしていくかという話で設計の仕方を変えましょうといった内容は、自分の経験とすごく被っていて親近感を覚えました。

塩路 JASAに対して望むことがあればお



株式会社FLAPS システム開発部

中原 啓之輔 氏

話いただけますか。

明石 会社の規模も取り組んでいる事業や内容もそれぞれ違うでしょうけど、JASAとしてみんなが一丸となって取り組める業務があると面白いことができそうですね。そうしたプロジェクトなら会員の担当者だけにとどまらず、それぞれの会社の社員同士でもつながりができるでしょうし、今後の成長に期待が膨らみます。

中原 そうですね。具体的にそうした前例はありますか？

塩路 ありますよ。どこかの会社からみんなで協力し合って進めましょうという話があったり、官公庁関連の案件などもあります。ただ関わるならば、単に会員として属しているだけでは話も届きづらいので、意欲があることを常に発信していれば、「そう言えばFLAPSさんが関心を持っていたな」と話が行きやすくなると思います。

一多彩な活動を展開している委員会やWGでもそうした取り組みはあります。ドローンWGはJASA独自のドローン開発を進めていますし、RISC-V WGではマイクロプロセッサであるRISC-Vを搭載したJASAのプラットフォームとなるボード開発にも取り組んでいます。こうしたWGに参加いただくと面白い展開につながると思います。

塩路 これまで東京中心で大阪から参加しにくい側面がありましたが、コロナ禍からオンラインで実施されるようになって地域の垣根がなくなり遠方からも参加しやすくなりましたから。ぜひ参加いただいて、JASAの利点を存分に活用していただければと思います。